現代アーティストの汪美杉（おう・びさん）は、「生と死」という根源的なテーマを、日常の感覚として豊かに表現してきました。生きているときの肌触り、人生の終わりを思う心の揺れ、生き物の死──汪さんにとってそれらは特別な出来事ではなく、自然に存在する当たり前の循環。たとえ自身が世から消えても、太陽の輝きは変わることなく続いていくという、その揺るぎない神秘こそが創作を突き動かしています。

制作は、自然の観察から始まります。風の余韻、水の揺らぎ、火の気配……一瞬の感覚が心に沈み込み、やがて「かたち」として浮かび上がる。その表現は、目に見える造形だけでなく、内面に宿る精神や感覚の層までも映し出されています。

表現手段としては伝統的な版画技法を用いながらも、木版画ならではの偶然性や水のにじみを生かしつつ、新たな素材や方法を取り入れるなど、枠にとらわれない試みを続けています。

「静かな余白のなかで、『ある』と『ない』が同時に息づく感覚を、鑑賞者と分かち合いたい」と汪さん。作品の前に立つと、自然と自分自身が交わるような、ひそやかで触覚にも似た響きを感じ取ることができるかもしれません。

南埜浩章　　ギャラリー　テレスコープ京都　代表